

# 企画書「出前ハートケア相談室」

学齢・思春期

自分のことが好きなこどもの割合は約25%です。（「平成22年度次世代育成支援に関するニーズ調査」より）こどもたちが自身を大切に思えることが、お友達や異性を大切にすることにつながります。私が（僕が）が家族や周囲のたくさんの人の協力や見守りがあって成長できたこと、大切な命であることを伝える活動をしています。地域の皆さんも活動できるように、参考のために企画書を提供します。



【対象】小・中・高校生と保護者

【内容】1時間半～2時間程度

【保護者】：事前に妊娠中やお子さんが赤ちゃんときに、周りの人から声かけしてもらったこと、助けてもらったことなどを事前にメッセージとして書いてもらいます。実施者が、ひと言添えて子どもたちに返します。



【子ども】：①自己紹介

②紙芝居「おなかの中の私」

③体験学習（小グループに分かれて）

- ・私やお友達の心臓の音を聴診器で聞こう
- ・赤ちゃんの抱っこ体験、妊婦体験



【参加したこどもの声】

- ・私がママのおなかの中にいる時、こんなに大変だったのかと思った。
- ・赤ちゃんがおなかの中であんな暮らしをしているとは思わなかった。

【保護者からのメッセージ】

- ・これまで、こどもを通してたくさんの人と会話し、励ましてもらった。
- ・こどもが健康で素直に育ってくれたことに感謝したい。

【指導員の声】

- ・命の大切さを再び感じとることができた。学童の保護者の方にも聞いていただきたい内容だった。

【中央部地域健康づくり推進員会からのメッセージ】

子どもたちの感性はとても豊かで、体験を通していろんなことを感じ取ってくれます。この活動で、子どもたち自身が大切に育てられてきたことを感じ、相手も大切にすることができると感じています。